2020年度　　LAFANBAPMA

国　　語

注　意

1. 問題は全部で21ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし，マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが，どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の ◯ を塗りつぶしなさい。◯で囲んだり╳をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が 1 のとき)

1	● ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓪

4. 一度記入したマークを消す場合は，消しゴムでよく消すこと。╳をつけても消したことにならない。
5. 解答用紙をよごしたり，折り曲げたりしないこと。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

ところで、言語とはそもそも何だろうか。この問いに対する一般的な回答は今日、大きく二つに分けられよう。まず言語は一方で、「コミュニケーション・ツール」という言い方が代表するように、意思ソツウの手段ないし情報伝達のための道具と広く考えられている。街を歩くと否[1]が応でも目に入るさまざまな宣伝や案内の文句、あるいは家でテレビを点ければ次々と目と耳に飛び込んでくる言葉、これら私たちの日常生活を覆っている言葉のほとんどは、情報を伝達するための道具として発せられているのではないだろうか。また、すでに日常化した電子メールの遣り取りによるコミュニケーションにおいて、ほとんどの場合言語は意思ソツウの手段と見なされていよう。そして、「グロービッシュ」という言葉もあるくらい、「グローバル」な「コミュニケーション・ツール」として英語が有用だと広く考えられているからこそ、あれほど多くの人々が英語の「コミュニケーション・スキル」を高めようと思うのだろうし、日本の政府も英語教育の拡充と早期化を進めようとするのだろう。

しかし他方[2]で、言語を情報伝達の道具と考える*プラグマティックな言語観が一般化し、また「グローバリゼーション」の進展とともに「グローバル」な「コミュニケーション・ツール」としての英語への注目度が増してくると、それに対する［A］として、諸民族の文化的アイデンティティの根幹をなす一つの言語が実体として存在するという言語観が、声高に主張されるようになる。日本でも数年前に起きた「日本語ブーム」も、その現われであろう。そのようなナショナリスティックな言語観の持ち主は、それ自体として存在すると見なす言語を純化しようとし、さらに他言語の脅威からそれを擁護しようとする。例えば、最近の日本語の用法の変化を「乱れ」として問題視し、学校教育において英語の比重が高まることを「英語帝国主義」と非難するのである。そうまでして一個の実体としての言語に自分の拠り所を求める言語観は、まさに「グローバリゼーション」のただなかで、以前よりも多くの人々の共感を得ているのではないだろうか。

このように民族の文化的アイデンティティの源泉として、独特の純粋な言語がそれ自体として存在するという言語観にしても、言語を「コミュニケーション・ツール」と割り切る言語観にしても、言語についてのある見方を共有している。両者とも、一

個の言語が体系として存在すると考えているのだ。今日一般的な二つの言語観は、体系的な統一体としての言語の実在を想定する見方を共有しているのである。[3] そしてそのような見方は、それほど古くからあるものではない。諸言語の語彙や文法が、国民国家の言語の語彙や文法として整備され、教育されるようになる近代の産物なのである。明治期以来「国語」として日本語が作り出されていく過程をたどり、そこに関わった人々の思想を浮き彫りにした『「国語」という思想』において、イ・ヨンスクはこう述べている。「したがって、言語が人間の話す行為から離れて存在する実体として想像されることと、言語がコンテクストから任意に抽出することのできる中性的な道具であると認識することは、ひとつのコインの裏表の関係をなすといえる。その点からいえば、言語を民族精神の精髄とみなす言語ナショナリズムと、言語をあくまでコミュニケーションの手段としてしか考えない言語道具観は、おなじ言語認識の時代の産物なのである」。さらに、一個の統一体としての「言語」を想定する近代的な言語観のもとでは、言語によるコミュニケーションは、「仲間内」に閉塞し、そこから異質な他者が排除されてしまう。言語を自己の民族的アイデンティティの核心とする立場からするなら、例えば「日本語が外国人にわかるはずがない」ということになるし、言語を意思ソツウの手段と考えるにしても、コミュニケーションの相手になるのは、道具としての言語を使いこなせる者だけということになる。私たちは、あまりにもしばしば排他的な体系として言語を想定し、それを用いることで、その言語を共有しない他者たちを排除してしまっているのである。しかし、例えば「多文化共生」として目指されているのは、何よりもまず、言語を共有しない他者と共に生きることではないのだろうか。私たちが、言語そのもののうちに、そのような他者と応え合う力[4]を見いださなければ、「共生」へ向かうことすらできないはずである。そのためにも近代的言語観が相対化[5]されなければならない。

すでに触れたように、「国語」としての「日本語」自体、明治期に人工的に作り出された言語である。それどころか、それまでは統一された「日本語」という観念すら、日本列島に住む人々のあいだで共有されていなかったのである。酒井直樹は『死産される日本語・日本人』のなかで、一八世紀の日本列島における言葉のありさまについてこのように述べている。

「一八世紀の日本列島では、漢文、和漢混交文、いわゆる擬古文、候文、歌文、そして、俗語というように多数の異なった文体と書記体系が用いられていた。これらの異なった雅俗混交的な文体は、地方別の俚言あるいはお国言葉とともに混在してお

り、それぞれを民族言語としてひとつの輪郭に収めることはできなかった。階級や身分によって大きな差異があるとはいえ、一個人がこれらの異なった言語の間を機会に応じて動き回ることを、奇妙とも異常とも思わない社会編成があったのである」。

つまり、かつて日本列島では、さまざまな話し言葉と書き言葉が息づいていたのであり、人々はそのあいだを横断しながら生きていたのだ。「日本語」は、そのような言語の雑種的な多様性を抑圧するかたちで、しかも東京という一地域の話し言葉を標準化することによって作られたのである。さらにこれが「国語」として体系化され、「日本人」のアイデンティティの根幹に据えられるなら、言葉の語り手の［　B　］も「日本国民」のそれに固定されてしまうことになる。まさにそのために、戦前日本の植民地においては「国語教育」が「皇民化教育」として、支配される人々の言葉を奪うかたちで押し進められていったのだ。

私たちが言葉を話し、書くとは、つねに他者の言語の翻訳である。そう考えて、[6]翻訳という視点から言語を捉え返した思想家の一人に、二〇世紀の前半に批評家などとしても活躍したベンヤミンがいる。彼によると、言語を語ることはまず、つねに自分以外のものが語りかけてくるのに対する応答である。言葉を語りかけようとするとき、私たちは他者が存在することを認め、その何らかの――表情や身ぶりを含めた――語りかけを受け取っているのだ。そして、これに対する応答として、具体的には他者の語りかける言葉の翻訳として語り出される言葉は、けっして他者とのコミュニケーションの手段ではない。むしろコミュニケーションの可能性を語りかけるものであり、そうして他者とのあいだに言葉を交わし合う回路を切り開こうとしているのである。ベンヤミンは、言語を語ることを翻訳と捉え直すことによって、言語が根源的に共約不可能な*――すなわち同じ公分母で括れない、それぞれ根本的に異質な――他者たちのあいだで語られることを見いだすとともに、言語そのものに、共約不可能な他者とのあいだにコミュニケーションの可能性を切り開く力があることを見抜いているのだ。私たちが言葉を語ろうとするのは、他者とのあいだに隔たりがあるからではないだろうか。そのときすでに、同じ立場に立つことのできない他者の存在を認め、その語りかけを別の言葉で受け止めようとしてはいないだろうか。ちなみにベンヤミンと同時代に活躍した宗教哲学者ローゼンツヴァイクは、翻訳は異質な言語のあいだに橋を架けるとも述べている。さらにローゼンツヴァイクによると、他の言語の翻訳とともにそれぞれの言語はそのたびごとつねに創造されるのである。

たしかに、言語を語るとは他の言語を翻訳することであり、翻訳とともにそれぞれの言語が不断に新生を遂げるというのは、にわかには想像できないことかもしれない。私たちが、ある言語を、その規則を含めて身につけてしまっているなかから語っているのも間違いない。しかし、言語を語ることはたんに規則的な反復だろうか。今眼の前にいる他者に、別の他者に対して語ったのと同じ言葉を語りかけたとしても、それは同じ記号の完全な再現ではないはずである。それに、他者が語りかける言葉を、その異質さもろとも受け止め、それに別の言葉で応えようとするならば、「母語」として身についた言語を問い直し、応答する言葉を新たに見いださなければならない。そのような翻訳とともに言語が創造され、他者との関係が創設されると言えないだろうか。さらにこのとき、今まで「母語」と自明視してきた言語までも、異質な他者の言語として立ち現われてくる。その規則を逸脱し、その体系的構造を揺さぶるかたちでのみ、私たちは他者の言語にもう一つの言葉で応えることができるのだ。他者と遭遇し、その語りかけを受け止めるなかで、絶えず自分が内側から揺さぶられ、他者に応える新たな自分を、新たなコミュニケーションの可能性へ向けて表出する言葉を求める「絶対的翻訳」の経験。情報伝達の道具としての言葉が世界に充満しているなかで、アイデンティティの核としての言語が追い求められ、それとともに言葉が同類のうちに閉塞しつつある今こそ、その経験の可能性が、共約不可能な他者との共生の可能性へ向けて掘り下げられなければならないのではないだろうか。

（柿木伸之『共生を哲学する―他者と共に生きるために』より）

（注）

＊プラグマティック＝ここでは、実用的、実利的の意。

＊共約不可能＝ここでは、それぞれの他者たちが相互に異なる価値尺度や規則のもとに生きているということ、そのために優劣などの比較はできないということを指す。

問一　波線部「ソツウ」を漢字で書け。**解答用紙（その2）を使用。**

問二　傍線部1「否が応でも」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 1 。

① のべつ幕無しに　② その上ますます　③ 有無を言わせず　④ 良くも悪しくも　⑤ 断り切れず

問三　最初の段落の、言葉を「手段」「道具」と見なす立場について、この文章は必ずしも肯定的ではない。その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 2 。

① 言語を手段、道具とみなす実用的、実利的な立場は、言語の価値をその有効性のなかに求め、言語の本質を顧みることがないから。

② 手段、道具は間断なく急速に進歩しており、常に新しく変わっていくそれを獲得するには努力や資金など多大なコストがかかるから。

③ 手段、道具は他の目的に仕えるものでありながらもそれ自体に魅力があるため、人は時として手段を目的化させてしまうから。

④ 言語を手段、道具と見なす立場は、それを宣伝や広告のために使用し、しばしば人を惑わせたり、間違った方向に導いたりするから。

⑤ 手段、道具と目的、目標は異なるが、それでも両者は一連の行為のなかでつながっており、実際には区別することができないから。

問四　傍線部2「しかし他方で」で始まる段落で説明されている言語観の特徴として適切ではないものを次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 3 。

① 外国人から見た自国語の特徴を、自国語の本質的な特性だと考える。
② 他者の言語との関係において言語が変わり得ることを認めない。
③ 他者からの影響、異物の混入について過敏に反応してしまう。
④ 純粋でまじり気のない言語という幻想を実体化してしまう。
⑤ 気づかないうちに排他主義的な考えに傾いていく。

問五　空欄 A に当てはまる語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 4 。

① 対応　② 抑制　③ 追随　④ 反動　⑤ 困惑

問六　傍線部3「体系的な統一体としての言語の実在を想定する見方」の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 5 。

① 各国の国語は他国語と対立することによって、次第にその特徴を明らかにすると考える見方。
② 個々人が具体的に行う言葉の遣り取りに先立って言語という約束事の体系があると考える見方。
③ 言語という抽象的な概念は実際には存在せず、実際にあるのはさまざまな国の国語だとする見方。
④ 国語が時代によって変化していくのは事実であるにせよ、重要な部分は決して変わらないとする見方。
⑤ グローバル化を果した世界には事実上の統一体としての世界共通言語が生まれつつあるとする見方。

問七　傍線部4「他者と応え合う力」は、どのような言語観、言語行動の中に宿ると考えられるか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 6 。

① 言語を民族的アイデンティティの核心とする立場。
② 言語をコミュニケーションの手段と考える立場。
③ 一個人が異なった言語の間を機会に応じて動き回ること。
④ 他者の考えを知るために未知の言語で書かれた書物を翻訳すること。
⑤ 他者とのあいだに言葉を交わし合う回路を切り開こうとする立場。

問八　傍線部5「相対化」は、この文章の中ではどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 7 。

① 日本語の特質を知るために他の言語と比較してみること。
② 他の言語と比べることで日本語の魅力や欠点を意識化すること。
③ 現在の言語観を言語観の歴史的な変容の中に置き直してみること。
④ 言語を共有しない他者と向き合うことで真の共生への手だてを探りだすこと。
⑤ 言語を手段や道具とみなすようになるまでの言語観の発展を知ること。

問九　空欄 B に当てはまる語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 8 。

① アイデンティティ　② コミュニケーション　③ 方言使用
④ 言語道具観　⑤ 翻訳能力

問十　傍線部6「翻訳という視点から言語を捉え返した思想家」とあるが、この思想家の「翻訳」概念の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 9 。

① 出発点にある言語を目標とする言語に移すときに、一つひとつの単語の意味にとらわれることなく、全体の意味が伝わるように努力すること。

② 自国語と外国語の間の翻訳だけでなく、分かり難い専門用語や概念をより一般的な言葉で置き換えることも含めて翻訳ととらえること。

③ 一方的に言葉を発するのではなく、その前に相手の思いをあらかじめ汲み取って、友情にみちた遣り取りが可能になるよう力をつくすこと。

④ すでにある約束事として言語を使うのではなく、その約束事を共有しない他者の存在を肯定し、その語りかけを受け取り応答すること。

⑤ 言語とともに表情や身振りなどの非言語的情報を読み解くことによって、言語では語り得ない最も繊細な部分を含めた遣り取りをすること。

問十一　傍線部7「それぞれの言語が不断に新生を遂げる」とあるが、これとは逆の見方を示す語句を文中から六字で抜き出しなさい。**解答用紙(その2)を使用。**

問十二　この文章で使われている「共生」という言葉からどのような展望を読みとることができるか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 10 。

① 自分たちと異なる言語と文化のもとに生きる他者と共生する必要が生じており、外国語を学ぶことは現代社会の喫緊の課題となる。

② だれにとっても妥当と考えられる共通の規則を探り出すことによって、共生という困難な課題にも希望をもって向き合うことができる。

③ 同じ国民であっても人それぞれに価値観の違いがあるが、同じ言語を共有する人々の間であれば最終的に共生の可能性が芽生える。

④ 言語や文化を共有しない他者の呼びかけを受け止め、そのたびごとに自分たち自身を見直すことの中から共生の可能性が生まれる。

⑤ 共生の時代には、自分たちとは異なる他者に対し自国の言語、文化を説明する機会が増えるため、従来にもまして言語、文化の理解が重要性を増してくる。

二　次の文章を読んで、後の問に答えよ。

*行基菩薩、まだ若くおはしける時、智光法師に論*議に逢ひ給ひたりけるを、1智光少し驕慢の心にやありけむ、若き敵に逢ひたりと思へる気色なりければ、歌を詠みかけられける。

真福田が修行に出でし*片袴我こそ縫ひ　A　その片袴

かく言はれて、「*二生の人にこそおはしけれ」と帰伏しにけり。このことは、行基菩薩の*前の身に、*大和の国なりける長者とぞいひけれど、国の大領などいふものにやありけむ、その家の娘のいみじくかしづきけるが、2かたちなどいとをかしかりけるを、*門守する女のありけるが、子に真福田といふ童ありけり。十七、八ばかりなりけるが、その家の娘をほのかに見て、人知れず病になりて、4死ぬべくなりにける時に、母*の女その由を問ひ聞きて、「我が子生きて給ひてむや」と漏らし言ひたりければ、娘「大方はやすかるべきやうなることなれど、無下にその童ざまにては、さすがなりぬべし。さるべからむ寺に行きて、法師になりて、学問よくして、才ある僧になりて来たらむ時、逢はむ」と言はせたりければ、5かくと聞きて、急ぎ出で立ちける。「童の着るべかりける袴、持て来。我縫ひて6取らせむ」と言ひければ、母の女、喜びながら、忍びて参らせたりけるを、片袴をなむ7縫ひて取らせたりける。さて、寺に行きて、師につきて学問を夜昼しければ、二、三年ばかりに、ことのほかの智者になりにけり。さて後来たりければ、「今宵」と言ひて逢ひたりけるほどに、この娘、にはかに消え入るやうにて亡くなりにけり。

法師あさましく悲しくおぼえて、寺に帰りて、道心深くおこしていよいよ尊くなりにけり。されど、我が童名「8真福田」といふこと、僧の中には、さしも知らせざりけるを、年経て、行基といふ若き智者の出で来たりけるに、論議にあひたるほどに、その昔名をかく言ひて、「我こそ縫ひ　A　その片袴」と言ひけるに、思ひ続くれば、「我がもと道心おこし始めし女は、すなはち、この行基にこそおはしけれど、我が身を尊き僧となさむとて、しばし仮に、かの女と生まれて見えたりける」と心得るに、9尊く、めでたくも恥も覚ゆるなり。*善知識は、まことに大の因縁なるものなり。

（『古来風躰抄』による）

（注）

＊行基菩薩＝奈良時代の高僧。「菩薩」は尊称。

＊論議＝経論の要義を問答すること。しばしば法会の行事として行なわれた。

＊片袴＝僧などが着用する短い袴。

＊二生の人＝前世も現世もともに人間として生まれてきた人。

＊前の身＝前世の姿。

＊大和の国なりける長者～大領などいふもの＝大和国に住んでいた長者で、その国の大領（郡の長官）などといった役の者。

＊門守＝門を見張る役目。

＊母の女＝真福田の母である女。

＊善知識＝人を仏道に導く機縁や機会となるもの。

問一　傍線部1「智光少し驕慢の心にやありけむ」の現代語訳として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 11 。

① 智光は少し驕って満足している心があったに違いない。

② 智光には少し人を見下す心があったのだろうか。

③ 智光は少し行基におごり高ぶった心があるのを見抜いたのだろうか。

④ 行基は智光の少し思い上がった心に気づいたのだろうか。

⑤ 智光に少し偉ぶっている様子があったのだろうか。いやあるはずがない。

問二　空欄 A に入る語として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 12 。

① ける　② しか　③ つ　④ たり　⑤ けむ

問三　傍線部2「いみじくかしづきける」の本文中での意味として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 13 。

① 長者の娘はとても謙虚であった。
② 行基が前世で長者の娘にとても世話になっていた。
③ 娘が長者を心から世話していた。
④ 長者が娘にとてもへりくだっていた。
⑤ 長者が娘を大切に育てていた。

問四　傍線部3「かたち」の本文中での意味として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 14 。

① 様子　② 挙動　③ 容貌　④ 心ばえ　⑤ 形態

問五　傍線部4「死ぬべくなりにける」とあるが、それはなぜか。理由として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 15 。

① 前世からそうなる運命だったから。
② 学識のある僧侶でなくては治せない病だったから。
③ 原因不明の流行病にかかってしまったので。
④ 娘に恋をしてしまったから。
⑤ 娘を無断で見たことで神罰が下ったため。

問六　傍線部5「かくと聞きて」とあるが、聞いた内容の説明として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 16 。

① 童姿のままでは逢うことはできないが、寺で学問を積んで立派な僧侶になったならば思いをかなえようということ。
② 童姿がさすがにすばらしいので、寺で才能溢れる僧侶になるだろうから、その時に逢うことにするということ。
③ 法師になり、良く学問をして、漢文に長じた僧侶になれば病もきっと治るだろうということ。
④ 願いをかなえることは簡単だが、法師となって学才に長じた僧になることは容易ではないということ。
⑤ ひどい童姿では無理なので、寺で才能のある僧となってから病を治療してあげようということ。

問七　傍線部6「取らせむ」の文法上の説明として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 17 。

① 動詞「取らす」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形。
② 動詞「取らす」の連用形＋意志の助動詞「む」の連体形。
③ 動詞「取る」の未然形＋使役の助動詞「す」の未然形＋意志の助動詞「む」の終止形。
④ 動詞「取る」の未然形＋尊敬の助動詞「す」の連用形＋意志の助動詞「む」の終止形。
⑤ 動詞「取る」の連用形＋使役の助動詞「す」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の命令形。

問八　傍線部7「縫ひて取らせたりける」の動作主体（主語）として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 18 。

① 童　② 母の女　③ 長者　④ 智光　⑤家の娘

問九　傍線部8「真福田」と同じ人物を漢字四文字以内で本文中から抜き出して記せ。**解答用紙（その2）を使用。**

問十　傍線部9「尊く、めでたくも恥も覚ゆるなり」とあるが、どうしてそのようなことになったのか。理由として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 19 。

① 詠みかけられた歌によって智光法師の優れた力を思い知ったから。
② 行基が自分を仏道に導いたきっかけとなった人だと気づいたから。
③ 行基が菩薩としても生きていたという二つの運命を持った人だと悟ったから。
④ 行基が生まれ変わる前に大和国の長者として自分を導いてくれていたと解ったから。
⑤ どれほど自分より若かったとしても智者には学ぶべきだと考えたから。

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

「復古主義」という言葉があります。歴史に根ざしたひとつの態度だと思います。保守主義が、歴史によって作り出され今に生きているもの、言わば歴史的現実を尊重するなら、復古主義はその原理原則から言うと、どこかのいにしえに途絶えてしまった何か、今に生きていない昔の何かを復活させて、現在から未来を作り直そうとする態度です。[1]保守主義と復古主義は、概念として考えると、まったく異質です。

では復古主義は「温故知新主義」[2]とどのような相性を示すでしょうか。

復古の中身は「温故」から出てきます。歴史を学んで、過去をよく知ってこそ、復古の内容も理解される。でも、*荻生徂徠（おぎゅうそらい）の定義に従うと「知新」は過去にはまったくなかったものを知ろうということです。なかったから新しい。新しい今を知り、新しい未来を考える。歴史は常に不可測に流動してゆくもので、常に更新されてゆく。日々に新たなり。その「新」を知るためには「温故」が重要な糧（ア）になるでしょう。でもあくまで糧は糧であって、いにしえをそのまま今によみがえらせようと思っても、うまく行くはずはない。

歴史が同じになることはありえない。昔の人は今に生きていない。今の人は昔と違う。使う言葉も時と共に変化している。同じ日本語でも時が違えば違う。人口も変化する。経済力も異なってくる。国際関係も国内関係も同じということはない。個人だろうが、家だろうが、村だろうが、国だろうが、世界だろうが、どのレベルで復古させようと思っても、みんな違う。[3]歴史はとりかえのきかない一回性の現象だから歴史なのです。

細部にこだわればこだわるほど歴史は歴史として生き生きとしてくる。復古をジギ（イ）通り、まっすぐにとらえようと思っても、何しろそこには「知新」がないのだから、どうしようもありません。

戦前から戦後まで、一貫してこの国の文芸批評家として大きな地位を占めた小林秀雄は歴史のそうした面に特にこだわりぬいた人でした。一九六三年に月刊誌『文藝春秋』に発表された『考えるヒント』のシリーズの一篇「歴史」で、小林はこう言います。

「私達の歴史に対する興味は、歴史の事実なり、歴史の事件なりのどうにもならぬ個性に結ばれている。ある事件が、時空の上で、判然と局限され、他のどんな事件とも交換が利かぬ、そういう風な過去の諸事件の展開が、現在の私達の心中に現前していなければ、私達の歴史的興味は、決して発生しない」

歴史の一コマ一コマにはいかなる何者ともかえがたい個性が存在している。交換不能なもの。［A］のもの。それが歴史の事実であり事件であって、その集積として展開するのが歴史の流れである。

そしてそれは、なぜか不思議なことに「私達の心中に現前して」くる。難しい歴史資料に当たらなくても、おおよそのことを知れば、歴史の一コマは心に具体的な光景として浮かび、その「温故」の作用が「今」を生きるための「考えるヒント」となって、「知新」への想像力の原基となる。

その場合、「復古」、つまりいにしえのよみがえりは、われわれの心の中では起きるのです。でもその現実への再現は不可能なのです。「他のどんな事件とも交換が利かぬ」のですから。

そんなことは当たり前でしょう。いまさら確認するまでもない。復古は不可能なのです。ところが不可能を目指す復古主義は、思想や運動としては、しばしば有効です。なぜなら、われわれは復古主義を単純に素直に信じると、「知新」の不安を免れることができるからです。

やはり荻生徂徠が述べているように、時間は変転きわまりない。時勢という言葉がありますが、時の勢いが今日、明日、どこに向くのかは誰も知らない。しかも人間個人の未来には、誰しもあまり考えたくないだろういつの日かの死が含まれている。それだけでも何がいつ起こるか分からない未来は、不安材料以外の何物でもない。

不安をひっくり返すと、希望になります。何が起こるか分からないから、不安もあるが希望もある。

保守主義者は希望でなく「予約」を目指すのですが、「予約」するためには保ち守る値打ちのある大きな元手がないといけません。しかも天下国家が安定していないといけない。そうであれば、何年後の金利を「予約」したり、その利益によってやれる物事を高確度で「予定」したりすることもできる。でも「予約」や「予定」が保守主義者の思う通りになるかどうか。とすれば、よほどの

条件が整っていなければ、大方の人は未来について不安と希望に引き裂かれたまま宙吊りにされ続けると言ってよいでしょう。

そこをスリリングに果敢に前向きに切り抜けるのが、おそらく「温故知新主義」なのです。歴史を学び続け、それを糧に、過去の歴史に起きていなかった新しい現在と未来の意味を日々に知る。 B 。「温故知新主義」をまじめに突き詰めようとしたら、これは苦行です。そういう姿勢を忘れないでいようくらいなら、まだ何とかなるかもしれませんが。しかし、思い詰めたらなかなかもたない。そんな不安と希望に引き裂かれた未来にさらされ続け、保ち守るものもじゅうぶんにない人々は、しばしば復古主義を選ぶものです。

復古の対象は、過去の事実ですから、ほんとうにあったわけです。「温故」には手ごたえがある。それが再現できると気休めにも思えれば、何が起きるか分からない未来に対する危うい感情は軽減されます。日々に新しさを自分なりの「温故知新」で発見せよ、などという難題より、復古に向かって手を携えましょう、というほうがずいぶん楽なのです。人間精神の問題として。あの黄金の日々がよみがえる！　これほど人間を魅了する概念はありません。一回性で[4]不可逆性の歴史なんてことを言っていたら、夢も希望もない。よみがえるものはよみがえるのだ。昔に戻りたいというのは、人間の基本感情でもあるでしょう。退行です。母親の胎内（たいない）の羊水を漂っていた時こそが原初のユートピア体験だとすれば、退行こそ人間の基本の衝動でしょう。それに歴史的に対応するのは復古です。

復古は夢のまた夢。でもスローガンとしては時と場合によっては絶大な力を持つ。思えば、この国の明治維新も「王政復古」のスローガンのもとに行われたのでした。「維新」が「復古」。未知の世界に投げ出されるのではなく、昔、確実にうまく行っていた時代が帰ってくるのだ。慶応三（一八六七）年に出された「王政復古の大号令」はこう宣言します。

「諸事神武創業の始めに原（もとづ）き、縉紳武弁堂上地下の別なく、至当の公議を竭（つく）し、天下と休戚を同じく遊ばさるべき叡慮に付き、各勉励旧来驕惰の汚習を洗ひ、尽忠報国の誠を以て奉公致すべく候事」

何事も神武天皇の時代に戻ると述べています。もちろん実際はそうは行かないのですが、人心は「維新」というよりも「復古」の方が、何かとつかめるものなのです。ムッソリーニはローマ帝国の復古のイメージを喧伝（けんでん）しましたし、ヒトラーだと神聖ローマ

帝国の時代を思い出させようとします。スターリンのソヴィエト連邦は、共産主義の思想からいえば、過去をひたすら否定していくはずなのですが、アレクサンドル・ネフスキーやイワン雷帝など、ロシアの過去の英雄をずらりと並べて喧伝し、復古色を打ち出しました。

「知新」そっちのけの「温故」と「復古」。しかも「復古」のための「温故」は、ユートピア的で現実離れした歴史像を捏造する傾向にあります。歴史というよりも神話です。繰り返さないはずの歴史を繰り返せるかのように思う。そのときの歴史は都合よく理想化されている。そういう言説についていけば、われわれは「知新」という困難な作業を忘れることができる。

復古主義はやはり退行主義でしょう。むろん、「王政復古」で日本が実際に退行したわけではありません。「王政復古」というファンタスティックな形式の上に作られた夢の世界のうえで、実際は「知新」の苦悩の多い「文明開化」の試行錯誤が展開され、近代日本の歴史が編まれました。過去志向の「王政復古」だけでは退行してしまう。未来志向の「文明開化」だけでは希望と不安に引き裂かれてしまう。両者をセットにして按配がよくなる。[5]復古主義の応用とそれなりの成功の事例として、考えることができるかもしれません。

（片山杜秀『歴史という教養』による）

（注）

＊荻生徂徠＝江戸時代中期の儒学者。本書ではこの前のところで、荻生徂徠の『論語徴』を引用し、徂徠の考える「温故知新」とは「歴史を学ぶことと、歴史を学ぶだけでは対応不能な、一々がすべて新しい現在・未来を乗り越えて行く発想法を身に付けることがセットになっている」と述べている。

問一　波線部ア「糧」の本文中での読みを書け。**解答用紙（その2）を使用。**

問二　波線部イ「ジギ」を適切な漢字に改めよ。**解答用紙（その2）を使用。**

問三　傍線部1「保守主義と復古主義は、概念として考えると、まったく異質です」とあるが、どうしてそのように言えるのか、本文の内容を踏まえて、最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 20 。

① 保守主義が未来への不安を常に抱くのに対して、復古主義は未来への不安を抱くことがないから。

② 保守主義が天下国家の安定を第一に優先するのに対して、復古主義は安定よりもいにしえのよみがえりを希望するから。

③ 保守主義が重視する未来の金利や利益の獲得は実際には不可能だが、復古主義の過去の再現は可能性があるから。

④ 保守主義は確率が高いと思われる先のことを重視するが、復古主義は過去に確実に存在したものを現在に再生産させようとするものだから。

⑤ 保守主義は正確な過去の分析の積み上げであるのに対して、復古主義は過去の幻想的な歴史だけを見ようとするから。

問四　筆者が傍線部2で述べる「温故知新主義」とはどのようなものか。本文の内容を踏まえて最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 21 。

① 歴史の転換期における古人達の知識をそのまま活用し、未来に向けて果敢に前向きに対応しようとする主義。

② 何が起こるか分からない未来への危うい感情を抱きながら、過去の歴史を重視して前進を止めない思想。

③ 過去の歴史を学ぶことを通じて、新しい知識を見つけ出し、未来への不安を取り除くことを可能にする思考。

④ 昔のことを深く研究し、そこから安定した未来への普遍的法則を見つけ出す合理的な思考。

⑤ 同じ事は二度と起こらないものとして歴史を学び、それに基づいてまだ分からない未来について考えて決断してゆく主義。

問五　傍線部3「歴史はとりかえのきかない一回性の現象」とあるが、どうしてそのように言えるのか。本文の内容を踏まえて最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 22 。

① 歴史上の事実や事件は個別の時間と空間の中で限定され、他に置き換えることができない特有の性質を持っているから。

② 過去に起きたことを現在によみがえらせようとする復古主義は人々を魅了するが、現実的には不可能だから。

③ 歴史の一コマ一コマは一回ごとに起きたものであり、他の事件と取り替えることは不可能な場合がほとんどだから。

④ 我々が歴史に対して興味を抱くのは難解な歴史資料を読解しなくても、大概を知ることで具体的な光景がイメージできるから。

⑤ 過去の一回だけのできごとは政治を司る者達によって現実離れした歴史像の中で捏造される傾向にあり、それによって他にとりかえることが不可能となっているから。

問六　文中の空欄 A に入る最適な四字熟語を次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 23 。

① 千載一遇　② 唯一無二　③ 十人十色　④ 南船北馬　⑤ 一騎当千

問七　文中の空欄 B に入る最適な定型表現を次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 24 。

① 人間万事塞翁が馬

② 朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり

③ 臨機応変

④ 言うは易し、行うは難し

⑤ 似て非なるもの

問八　傍線部4「不可逆性」の意味として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 25 。

① 変化した事物が、元の状態に戻ることができないという性質。
② 進んでしまったものが反対に戻ろうとする性質。
③ 逆行することが可能であったり不可能であったり一定しない性質。
④ そこから転換することを不可能にする性質。
⑤ 一度進んだものを元に戻すと退行してしまうという性質。

問九　傍線部5「復古主義の応用とそれなりの成功の事例」とあるが、どのようなことか。最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 26 。

① 「王政復古」を掲げることで、復古主義者達の夢をかなえつつ、保守主義者の不安も取り除いたこと。
② 明治維新が「王政復古」の幻想を掲げて不安を和らげる一方で、「文明開化」を推進したこと。
③ ムッソリーニが古代ローマ帝国の復活のイメージを盛んに周知し、イタリアを繁栄させたこと。
④ 「文明開化」を進めるために、現実離れした歴史を繰り返せると信じて「知新」の苦悩を払拭したこと。
⑤ 「王政復古の大号令」によって歴史を神話へと昇華して改革を行ったこと。

問十　この文章の内容と合致しないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 27 。

① ヒトラーやスターリンも人々の心を掌握するために過去の歴史を利用するところがあった。
② 復古主義は温故知新主義とは根本的に異なるが、一部は共通するところがある。
③ 「温故」には着実な実感があるが、「知新」には不安と苦難が伴う。
④ 復古主義は不可能なはずなのだが、明治維新を推進した中心人物達を魅了した。
⑤ 復古主義は過去に実在した事実なので、それがよみがえると思えると不安は解消される。